季刊
AMDA ジャーナル
多様性の共存

2010 年 3 月4 日 VOL.33 No.2 定価 600 円
発行／AMDA 〒701-1202 岡山市北区楢津 310-1
TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
E-mail:member@amda.or.jp

2010.3
SPRING
春

緊急救援 救える命があればどこへでも

ハイチ地震被災者に対する緊急医療支援活動

特定非営利活動法人アムダ（AMDA）
http://amda.or.jp/
特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
http://www.amda-minds.org/
特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
http://amda-imic.com/

活動内容（1月15日～2月9日時点）：

- ハイチ・サンマルク 聖ニコラス病院での病院支援ー第1次（1月18日～22日）
  被災地ポルトープランスから転送されてくる重症患者の診療
- ハイチ・サンマルク 聖ニコラス病院での病院支援ー第2次（1月28日～現在まで）
- ドミニカ共和国ヒマニでの病院支援（1月23日～24日）
  被災地から転送されてくる重症患者への処置
- ハイチ・ゴナイブ Hospital de Secours des Gonaivesなど2病院の支援（1月25日～現在）
  被災地から転送されてくる重症患者の診療

背景

1月12日午後4時53分（現地時間）ハイチ共和国首都ポルトープランス近郊で、マグニチュード7.0（USGS：アメリカ地質調査所）の地震が発生しました。ポルトープランスは、人口220万人を抱える大都市であることから、多くの犠牲者が予想されました※。建物の倒壊や電気・水・通信等のインフラは不通となり、主要な空港や港湾も機能が制限されました。この地震によりハイチ政府と治安維持にあたっていた国連ハイチ安定化ミッション（MINUSTAH）が機能不全に陥ったことから、各国政府・援助機関が支援を開始したにもかかわらず、支援活動は滞りました。1月26日時点で、ポルトープランスでは50万人が避難生活を送っており、早急にテントの配布や避難所の設置が求められています。WHO/PAHO（汎米保健機構/WHOアメリカ事務局）によると、医療支援に関しては、負傷者への緊急手術が求められる急性期から、術後介護や公衆衛生の改善の求められる亜急性期に移ろうとしています。現在のところ、懸念されている水を介する感染症や呼吸器感染症の蔓延は発生していません。

※ハイチ政府によると、2月6日時点で、死者21万人以上、負傷者30万人の被害が出ています。ポルトープランスでは、約120万人が避難生活を送っており、約50万人は近県に避難したと伝えられています。

活動経過（1月15日～2月9日時点）

AMDAは、この甚大な地震被害に際し、1月15日日本から渡久地医師、鈴木調整員、ヴィーラバグ調整員の3人を、同時にカナダ支部から看護師1人をハイチの隣国であるドミニカ共和国首都サントドミンゴに派遣しました。サントドミンゴは、陸路からハイチに入国する海外からの支援団体の入口となっており、AMDAスタッフも、協力団体との調整や活動サイト等の情報収集を行いました。その結果、18日渡久地医師、ヴィーラバグ調整員、カナダ支部看護師の3人は、カナダの民間団体CECIと現地NGOと共に、重傷者が転送されているサンマルク（ポルトープランス北西約90キロ）の聖ニコラス病院に向かい、到着後診療活動を開始しました。

一方、AMDA本部及び各国支部は、この度の被災状況の大きさを鑑み、AMDA多国籍医師団としての医療支援を拡充すべく、医療従事者を追加派遣しました。1月20日日本から菅波医師（AMDA代表）と朴医師（岡山大学病院）を、22日カナダ支部から看護師2人を、22日ロンドン在住松井医師を、23日コロンビア支部から医師3人・看護師2人を、24日ペルー支部から調整員1人を、26日ネパール支部から医師2人と日本から川村調整員を、それぞれ派遣しました。

1月18日から開始したサンマルクでの活動は、各国からの支援が入り医療ニーズが満たされたことから、国連等関係機関と協議した結果、一旦、22日で終了しました。サンマルクでの活動を終えた渡久地医師は、朴医師、松井医師と共に、重症患者が転送されているドミニカ共和国・ヒマニの病院で、24日から25日まで視察するとともに処置の手伝いにも加わりました。

1月25日からは、コロンビア支部・カナダ支部・ペルー支部スタッフが被災地ポルトープランスから5万人以上の被災者が避難しているゴナイブ（Gonaives：ポルトープランスから北西120キロ）の病院で診療を開始しています。また、1月28日サンマルクの聖ニコラス病院から、再度整形外科医の派遣要請を受けたことから、29日からネパール支部医師2人が骨折処置等の手術に一日あたり15例程立ち会っています。更に、2月5日からは、ボリビア支部医師3人とカナダ支部看護師1人が、コロンビア支部の医師・看護師の交代として、ゴナイブの病院に入り、診療を開始しています。

病院支援の他にも、現地協力団体を通じた病院への医療消耗品の寄贈や被災者へ食料品の寄贈を実施しています。今後、病院支援に加え、地震による四肢切断被災者への義肢プロジェクトを実施すべく、準備をしています。

緊急救援

ハイチ地震被災者に対する緊急医療支援活動
ードミニカ側国境地域ヒマニにて

岡山大学病院救急科　医師　朴　範子
（派遣期間：2010年1月20日～27日）

AMDAと岡山大学との連携協定に基づき、岡山大学病院救急科に、ハイチ緊急医療支援活動への医師派遣要請がAMDA本部からありました。これに応える形で急遽赴くことになりました。今回の地震は復興途上にあるハイチの首都に壊滅的な打撃を与えたもので、当初は被害の大きさもわからないという状況でした。派遣要請のあった1月18日には、AMDA多国籍医師団の第1陣はすでにハイチ国内のサンマルクで医療活動を展開していました。また一方、隣国ドミニカ共和国との国境地帯に避難してきたハイチ人被災者が多数おられるという情報があり、菅波代表とともに、ドミニカ側の国境地帯における地震被災者への医療ニーズ調査を目的として、AMDA多国籍医師団の第2陣として現地に赴きました。

1月20日に関西空港を出発して現地時間の21日早朝ドミニカの首都サントドミンゴに到着し、鈴木調整員と合流しました。21日と22日は菅波代表、鈴木調整員とともに現地の日本人移民の方や日本大使館、JICAの方々から情報収集しました。ハイチ首都ポルトープランスは医療ニーズも大きかったのですが、治安の悪化が強く懸念されましたため、ドミニカ共和国側の国境の町ヒマニで医療活動をすることに決まりました。

1月23日ヒマニに入り、サンマルクから戻ってきた第1陣と国境で合流し、ヒマニ公立病院に赴きました。ヒマニとサントドミンゴの間、ヒマニと国境の間には、多くの検問所がありました。事前に多数の国際機関やNGOがヒマニを拠点として支援活動を展開していると情報を得ていたとおり、物資を積んだ超大型トラックが通りに列をなして往来し、上空にはヘリコプターが頻繁に行き来するという状況でした。

ヒマニ公立病院の救急外来入口には、患者さんを乗せたトラックや乗用車が頻繁に到着していました。搬送されてくる方の多くが四肢の骨折を伴う外傷でした。院内にはアメリカ人医師やドミニカ人医師が多数いて診療にあたっていました。

1月24日には救急外来でギプスの巻き替えなどの処置を手伝いました。患者さんの中には、ヒマニの他の病院で処置を受けた後に紹介されてきた方もおられました。救急外来での処置の合間に病棟内を見てまわる機会がありました。入院患者さんの多くは外傷の患者さんで、小児の病室には下肢の切断後で療養中の患児も数名いました。なかなか現実を受け入れられない患児もいるとのことでした。同行していた松井医師が院内のドミニカ人医師から聞いた話によると、ヒマニ公立病院には手術室が3室あり、23日までは1日15件の手術を行っていたようですが、24日の午前中の段階では3例の手術が行われたとのことでした。また、24日の時点では病棟は半分くらい空いているようでした。他の病院に創処置の手伝いに行った第1陣のカナダ支部ドッジ看護師によると、その病院でも診療体制はよく整っており、患者さんの出入りも落ち着いてきているようだったと聞きました。

24日は、23日に比べると、通りを行きかう外国人の集団や大型トラックの数、救急外来に搬入される患者さんの数も減っているように思われました。この日は前日に院内に多数いたアメリカ人医師の姿はほとんどありませんでした。後から被災者の外傷に対しての緊急・準緊急手術のニーズは全体に減ってきていると聞きました。今後は術後のケアやリハビリテーション、精神的ケアなどのサポートが必要になってくると思われましたが、サンマルクで医療活動をしていた第1陣のメンバーから、整形外科手術が必要な患者さんの数が病院の診療能力に対して多すぎるため、処置が遅れて状態が悪くなった患者さんが多数おられると聞きました。緊急・準緊急手術の必要な患者さんの数は減ってきているとはいえ、今後も長期にわたる創の処置やリハビリテーション、精神的なサポートが必要な方が多くおられ、被災後の時間の経過とともに必要な医療も変化していくと思われました。また、国際機関の発表によると、幸い24日の段階では懸念される伝染性疾患の流行はまだ見られないものの、各地でモニタリングを開始するとのことでした。ハイチに対しては、長きにわたって医療や生活のサポートが必要であると感じました。身体的にも社会的にも、治療は施されてもなお多くの困難があります。被災した方々の一日も早い回復を願ってやみません。

最後に、勤務を肩代わりして下さり、今回の緊急医療支援活動に快く送り出してくださった岡山大学病院救急科の皆さんに心から感謝いたします。

AMDA多国籍医師団参加総数（2月9日時点）：22人
（医師12人・看護師6人・調整員4人）

各国AMDA	医師	看護師	調整員
岡山本部	4人 ●渡久地　宏文 （沖縄セントラル病院所属） 派遣期間：1月14日～29日 ●菅波　茂 （AMDA本部） 派遣期間：1月20日～27日 ●朴　範子 （岡山大学病院所属） 派遣期間：1月20日～27日 ●松井　治暁 （AMDA本部） 派遣期間：1月22日～31日		3人 ●鈴木　梓 （AMDA社会開発機構所属） 派遣期間：1月14日～29日 ●ニティアン・ヴィーラバグ （AMDA本部） 派遣期間：1月14日～2月9日 ●川村　剛太 （AMDA本部） 派遣期間：1月26日～
カナダ		4人	
コロンビア	3人 （外科・麻酔科・整形外科）	2人	
ペルー			1人
ネパール	2人（外科・整形外科）		
ボリビア	3人 （外科・麻酔科・整形外科）		

緊急救援

ハイチ地震復興支援

AMDAグループ　代表　菅波　茂

（派遣期間：2010年1月20日～27日）

1月12日、21万人以上の死者と220万人におよぶ被災者をだした大地震がハイチの首都ポルトープランス近郊で発生。前代未聞の被災者救援活動となりました。政府の統治機構崩壊により、治安の維持、水・電気・通信など社会インフラ、そして民間団体の受け入れなどが不可能となりました。4千人の武器を持った脱獄囚人に加えて、前アリスティド大統領が一斉蜂起を期待して市民に配ったが回収されていない銃器。その回収と治安を目的とした国連ハイチ安定化ミッションも大きな被害を受けました。豊富な救援物資が在りながら、配布システム不備が原因の格差。大きなビルほど死臭がきつい瓦礫の街。40万人の郊外移住の計画に必要な20万帖のテント。誰が何処から搬送するのでしょうか。

1月15日、AMDAは、日本から第1陣をドミニカ共和国首都サントドミンゴ経由でハイチに派遣。2月12日までに合計18人を派遣しています。岡山本部、カナダ支部、コロンビア支部、ペルー支部、ネパール支部からの医療スタッフの派遣に加えて、ボリビア支部とインド支部の医療チームが待機しています。ハイチ国内でAMDA医療チームを受け入れてくれたのはカナダ支部から紹介された非営利団体CECIです。ポルトープランスから北西に90kmにある都市サンマルクに活動拠点を持っています。1月22日にはサンマルクに米軍の保護下にある米国の医療スタッフと救援物資が大量に入ってきたことから、AMDA医療チームは更に北に40kmにあるゴナイブに開設された国連管轄地域医療施設へと移動しました。そこでは警護、宿舎そして食事などが提供される最適な活動拠点です。日本を出発する前に、軍の保護の無いAMDAにとっては、ハイチ国内では国連軍に保護されている国連管轄地域医療施設とドミニカ共和国国境地帯の医療機関を活動拠点とすることを考えています。

1月21日、私はドミニカ共和国に入国しました。政府の統治機構が崩壊しているハイチでの救援医療活動は出口のない人道支援活動になる可能性が高い。今後の活動方針の決定のためでした。治安を確保して必要な医療を提供できるのでしょうか。ハイチ国内か、ドミニカ共和国の国境地帯か。緊急対応医療か、一般医療か。国境にある人口1万人の町ヒマニの病院を視察しました。各国からの医療チームが活動していました。サントドミンゴでは日本大使館、JICA事務所、そしてドミニカ日系移民協会を訪問して助言を頂きました。1月23日にハイチ国内の医療ニーズが変わりました。整形外科手術により下肢を切断した患者に必要な義肢が求められ始めています。国境地帯にあるドミニカ共和国ヒマニの公立病院に義肢センターを設置することに決定しました。下腿を失って歩けない患者は最貧国ハイチでは究極の社会弱者になる可能性が高いからです。

帰国記者会見で活動報告をする菅波代表（左）と朴医師（右）

ハイチ復興支援の鍵は人々の団結力にあります。それは医学を超えています。ドミニカ共和国は野球天国です。ハイチのスポーツは野球とサッカーです。ドミニカ共和国には、1990年に設立されて以来、日本野球界に人材を提供している広島東洋カープ野球アカデミーがあります。ドミニカ日系移民協会と協議の上、少年や社会人野球交流推進によりハイチの復興支援を後押しすることに決定しました。

政策提言をします。広島東洋カープのある広島県と国際貢献推進条例のある岡山県の両知事が、道州制をめざして両県民の融和のために、少年野球チームをドミニカ共和国に派遣してはどうでしょうか。更には、台湾と韓国からも少年野球チームを派遣してはどうでしょうか。「ハイチ復興支援！野球交流推進」は東アジア共同体推進への布石になる可能性もあります。大きな破壊は大きな創造への第一歩とは、ヒンズー教のシバ神の示唆です。誇大妄想でしょうか。

緊急救援活動への参加を希望される方の登録制度 AMDA「ERネットワーク」のご案内

自然災害、紛争等による被災者に迅速に対応するため、登録制度「ERネットワーク日本」を整備しています。緊急支援活動派遣を希望される方（医師・看護師・助産師 他）は、ご登録をお願いします。なお、ご登録者には緊急救援初動の際にお声をかけさせていただきますが、ご登録により活動参加義務が発生することはありません。登録に関するお問い合わせは下記にお願いします。

特定非営利活動法人 アムダ：AMDA
〒701-1202　岡山市北区楢津310-1
TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
E-mail:menber@amda.or.jp

■ AMDAの活動にご支援のお願い

ご寄付の際には、郵便払込取扱票をご利用ください。

※郵便振替
口座番号　01250-2-40709
口座名
特定非営利活動法人 アムダ

※e-バンクからのご寄付も受け付けております。詳しくはホームページをご覧下さい。
http://amda.or.jp/

- AMDA支部（国内）
  - AMDA神奈川支部
  - AMDA兵庫県支部
  - AMDA沖縄支部
- AMDAクラブ
  - AMDA鎌倉クラブ（神奈川県）
  - AMDA高知クラブ（高知県）
  - AMDA福山クラブ（広島県）
  - AMDA竹原クラブ（広島県）
  - AMDA神女クラブ（兵庫県）（神戸女子大）
  - AMDA玉野クラブ（岡山県）
  - AMDA夕張クラブ（北海道）
- AMDA高校生会

2009年12月～10年1月の動き

〈講演〉		
12月 1日	総社市教育委員会	総社市人権教育指導者育成講座
12月 5日	金沢大学	被災地交流国際シンポジウム
12月 9日	玉野市立東児中学校	社会人の声を聞く会
12月 9日	岡山大学教育学部附属中学校	3年生GIFT講演会
1月22日	京都光華女子大学・短期大学	～いのちを考える～講演会
1月27日	伊島小学校	6年生社会科学習
1月31日	AMDA玉野クラブ	バングラデシュ訪問報告会
〈大学講義〉		
12月 4日	岡山大学薬学部	国際医療保健学
〈本部訪問〉〈学習関連〉		
12月 7日	総社市立総社東中学校	生徒会6人

【お知らせ】「季刊AMDAジャーナル」が2007年度より季刊になり年4回、ジャーナル・ダイジェスト年2回（6月、12月）の年間計6号を発行してまいりました。2010年度から、「AMDAジャーナル」として年6回発行してまいります。緊急救援をはじめとする各活動のご報告のみならず、ご支援者様の声も積極的に紹介させていただきます。どうぞ引き続きご高覧ください。

09年12月　フィリピン台風・スマトラ島沖地震等、4件の活動へのご寄付に対して、(社)日本医師会に感謝状を贈呈しました。

1月20日(株)山田養蜂場様よりご寄付を頂きました。

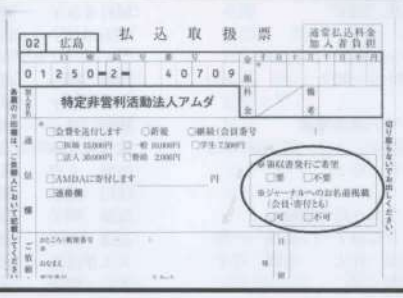
1月21日リリーストーン様よりチャリティシングルの売上の一部をご寄付頂きました。

1月27日(株)中野コロタイプ様より募金付年賀状の売上金をご寄付頂きました。

AMDAの郵便振替用紙ご記入にあたって

AMDAでは郵便振替用紙の右欄で、「領収書発行」ならびに「ジャーナルへのお名前掲載」のご希望を伺っています。一度チェックを入れていただきますと、以降、変更があるまで継続いたします。ご不明な点がありましたらAMDAまでお問合せください。

例えば、「ジャーナルへのお名前掲載」では、一度【不可】にされますと【可】のチェックをいただくまでAMDAジャーナルでは【匿名】になります。



沖縄支部　ハイチへ医師を派遣して

AMDA沖縄支部長/医療法人寿仁会沖縄セントラル病院
理事長　**大仲　良一**

渡久地医師

AMDA沖縄支部が設立されたのはAMDA本部設立に遅れること10年、1994年10月でした。それまで、那覇西ロータリークラブのメンバーとして、ポリオ撲滅のためインドのポリオの実態調査をはじめ、ラオスでの医療実態調査、フィリピンでの病院新設、ペルー孤児院の校舎建設等に携わる中で、偶然菅波代表にお目にかかり、AMDAの理念と実績に感動したことがきっかけでした。

沖縄支部は、AMDA本部の要請に基づいて、この度のハイチ地震緊急支援以前にも、2005年グアテマラ豪雨緊急支援、2001年エルサルバドル地震緊急支援、1998年ニカラグア洪水緊急支援等、合計7回の緊急支援活動に参加してきました。今回のハイチ地震の活動でも、過去の経験を踏まえ、中南米地域の実情に詳しい渡久地医師を派遣しました。身の危険を覚悟して、率先して被災者のために医療支援活動に赴いて下さることに、心からの敬意を表す次第です。同時に、先生の安否を常に気遣ってこられたご家族の皆々様の深いご理解があってこそ先生の決断が得られるもので、感謝に堪えません。これも渡久地先生ご夫妻が、南米ペルーに生まれ、大変なご苦労と努力の後に「医師」としての現在があることを深く認識され、心身共に病んでいる人々のために些かでも役に立ちたいという、思いがあるからだと考えております。我々はそのような先生を後方でしっかりとサポートしなければなりません。

これまで、沖縄支部は緊急救援活動への医師・看護師の派遣や発展途上国からの研修医の受け入れ、更に医療機器、医薬品などの寄贈を実施してきましたが、これらの活動は沖縄セントラル病院を核とした比較的個人レベルでの国際貢献という域を出ませんでした。

今後はAMDAのネットワークの中で、沖縄発の世界平和への国際貢献を目指し、沖縄支部が組織として更に活動の質・量とも充実できるよう、専門スタッフと会員の増加に努めると共に、緊急支援活動に即応できる体制作りに努めたいと考えております。

沖縄は半径3000km以内にアジアの主たる国々を抱し、アジア地域における緊急支援活動には最も良い条件を備えています。また、沖縄県民は去る大戦で唯一地上戦を体験し、その後四半世紀アメリカの支配下で過酷な生活を余儀なくされてきました。しかし、苦しい生活の中でもよき沖縄の風習である「ゆいまーる（互助の精神）」や「いちゃりばちょーでー（何かの縁で出逢えたものは皆兄弟）」という、何ものにも代え難い宝があり、自然の中に人の痛みを分かち合える県民性があります。一方、数百年続いた琉球王朝時代から中国大陸、アジア地域をはじめ諸外国との自由な交易を重ね、独特な文化を築いてきたという自負と、古くから諸外国に広く門戸を開いてきたという歴史があります。廃藩置県後、県民の生活は苦しさを増し、他の貧しい県と同様に国家の施策により、沖縄からも多くの移民が豊かな新天地を求めて中南米に移住し、その二世・三世の方々が今や政財界をはじめ、医療、教育界でも活動しています。このような沖縄県系人を介した支援ネットワークを構築し当該地での医療・保健活動を段階的に推進して行きたい。以上のように他府県にない条件を活かしつつ、活動の輪を拡げて行きたい。同時に、AMDA本部からの支援とご指導を切にお願いする次第です。

AMDA玉野クラブ
友好校交流とバングラデシュ支援について

AMDA玉野クラブ代表　**竹谷　和子**
（玉野市東児中学校　音楽教師）

AMDA玉野クラブでスタディツアーを計画し、2人の参加者と共に年末のバングラデシュを訪れました。参加者の1人原田紀之さんは玉野市東児中学校体育教師です。海外旅行は初めで多くの戸惑いがあったようですが、彼の中に多くの得るものもあったようです。彼の感想から抜粋を紹介します。

――いいなと感じた点は豊かな自然が多く他の動物達とも共存できていることです。また素直な人々が多く仕事や本気で勉強をしたいと思っている若者が多いし、スポーツ好きな人も結構いることがうれしかったです。問題点としては次のような点です。人口が密集し道路交通の乱れが深刻で、事故も多く危険である点。建物が安全な作りになっていない点。ゴミの問題も含め衛生状態の悪さや安全な水の確保の問題。そして、その日の食べ物に不自由する貧困層の人々もたくさんいることを実感しました。医者がいない、医薬品が少ない、また出産で死に至る女性も日本に比べると多いことなど医療面での問題も多く感じました。しかし同時に、現地の人達と少しでも楽しみや喜びを共に味わえたらという願いも充分に達成することができ、バングラデシュ滞在を楽しむことができました。――

今回のスタディツアーは、東児中学校と連携協定を結んでいる友好校テンガッチョ学校の生徒達とのスポーツ交流が主な活動でした。AMDA玉野クラブから縄跳び、フリスビー、バレーボール、サッカーボールを用意し、現地の学生達を中心に原田先生が基本の動作を指導し、模範を示し実践を取り入れた授業をされました。学生達は説明を良く聞き、ゲームを思い切り楽しんでいたようです。普段、スポーツをする機会はあまりないようですが身体能力の高い学生もかなりいるし、みんなで盛り上げようとするサービス精神がとても温かくさわやかでした。東児中と友好校テンガッチョ学校とで、うまく教育での交流ができたと考えます。

1月31日（日）、地元東児地区に呼びかけて、今回の訪問について原田先生・竹谷による報告会を開きました。寒い夜にもかかわらず、40名近くの人達が集まってくださいました。いろいろな形でAMDA玉野クラブを応援くださる地域の人達に、その支援を届けたことをご報告するとともに、人々の暮らしをお伝えしました。今年も玉野からバングラデシュ支援を発信していきます。皆様のご協力をよろしくお願いします。

バングラデシュの人々と（筆者中央）

ご案内　第3回 あすか健康村フェスティバル

日時：4月18日（日）10時～15時（小雨決行）
場所：岡山市北区楢津（180号線・平津橋バス停北）茶山亭周辺

こどもの遊びコーナー、国際交流コーナー、健康・介護相談コーナー、食べ物コーナー、演芸発表コーナーなど多様性のある催事です。
どうぞ遊びに来てください。

昨年のフェスティバル風景/高齢者疑似体験コーナー

バザー用品募集

AMDAではバザー用品を集めています。
4月14日(水)までにご持参いただければ幸いです。
お問い合わせ：086-284-7730（AMDA事務局内）
主催：あすか健康村フェスティバル実行委員会

ボランティア・センター

誰にでも他人の役に立ちたい気持がある ●支援者紹介●

「災害時義援金マッチングギフト制度」によるご支援の紹介

三井住友海上グループ MSIG Smile Heart Club

三井住友海上グループホールディングス株式会社
企画部 地球環境・社会貢献室 玉垣 裕美子

三井住友海上・岡山支店 神部支店長(左)

三井住友海上グループでは、今年1月に発生し甚大な被害をもたらしたハイチ地震の被災者を支援するため、社員から災害義援金の募集を行いました。2,473名から寄せられた義援金に会社が同額をマッチングギフトとして上乗せ、現地で支援活動に従事する日本のNGOに寄贈することとし、いち早く災害現場に赴き救援活動をスタートされたAMDAさんを、寄付先に選ばせていただきました。2月10日、当社グループの三井住友海上岡山支店・神部支店長から100万円を寄贈しました。

当社では、大規模災害が起きた際は「災害時義援金マッチングギフト制度」により、被災者の方々へ社員の気持ちを2倍にするかたちで寄付を行っています。AMDAさんには、これまでに1995年阪神・淡路大震災、2007年ソロモン諸島地震の際にも、社員からの義援金を託させていただきました。また、社員の社会貢献活動団体「MSIGスマイルハートクラブ」から毎年助成金としての支援も継続しています。

MSIGスマイルハートクラブは、CSR経営の一環として社会貢献活動に取り組む中で、社員の社会貢献活動の支援の柱として創設した社員有志による社会貢献活動団体です。会員からの拠出金を活動資金に、全国各地の社会活動団体への助成、NPOや他の企業との協働による社会貢献活動の実施、社員が参加するボランティア活動への資金援助等を、会社・社員が一体となって行っています。具体的な活動としては、チャリティ・クリスマスカードによる世界の紛争・被災地域の子どもの支援や、ボランティアによる手編み作品を世界の子どもたちに贈るプロジェクトなどがあります。1994年に発生したサハリン大地震では、被災した子どもにセーターを送る際、AMDAさんにご協力いただきました。

保険・金融サービス事業を通じて人々に安心・安全を届ける事業に携わる身として、「救える命があればどこへでも」というAMDAさんの姿勢に共感しています。今後も、被害に見舞われた人たちを助けたいと思う方々の代わりに、さまざまな現場でご活躍いただきたいと願っております。

ライフビジョン学会「オークション」を通じたご支援

the LIFE VISION SOCIETY of Japan

ライフビジョン学会常務理事 片山 洋子

いつもAMDAの皆様の活動を、尊敬をもって拝見しています。とくに自然災害などへのスピードと機動力、危険を賭して現地に飛ぶ皆様の利他的行為は、利己的人間が多い現代における警鐘であり、道標であると思います。

私たちのチャリティ・オークション・パーティは1995年、阪神淡路大震災によってはじまりました。とてつもない天災が身近で起こった衝撃が、このままではいけない、自分も何かしなくてはという焦燥感にかわり、(有)ライフビジョン（代表・奥井禮喜）の呼びかけに応えて手近な品々を携えて、ホテルの会場に参集しました。「今はとにかく再建、復興の元気を培養するときなのに、全国津々裏々でなぜか『自粛』の声が上がっている。いま必要なのは経済の元気、暮らしの、心の、連帯の元気ではないか」（第一回呼び掛け文95.2.6）被災していない我々が経済活動を縮小したのでは、被災地への経済支援は高められない、パーティなどを自粛するのは逆効果である。この話に賛同した京王プラザホテル労働組合は破格料金での会場提供に応じてくれました。

通常のオークションは、商品提供者は販売利益を、購入者は商品を手にします。主催者は両者のニーズをジョイントして販売による利ザヤを獲得する商業活動です。私たちのチャリティ・オークションは、提供商品の利益相当分をカンパしていただき、主催者は販売価格をできるだけ吊りあげてカンパ金を増やそうとする、チャリティ錬金術です。商業活動であがるべき利益を私有しないで、公共の利益に資するのです。2009年12月11日に行われたパーティは14回目、今回はAMDAに369,400円をお贈りできました。

パーティに参加してくださる皆様のうち、商品提供者は「私の提供品にどんな値段がつくかしら」とフリマ気分の様子です。毎年この季節に家の片付けをして、埋もれていた新品珍品を送ってくださる方もいます。一方の購入者は「何かいいものあるかしら」と、蚤の市に出かける期待でしょうか。皆さんはいつもよりおしゃれして、会場の新宿京王プラザホテル・メインバー「ブリアン」にやって来ます。

「オークション」風景

会場はやはり一流ホテルに限ります。カンパ品も会場に合わせて良いものが集まるように思います。会場が公民館だった時は、落札価格が野口英世か樋口一葉どまりでしたが、ホテルならば福沢諭吉サマがお出ましになります。贅沢意識のカンパというわけです。

主催者の気持ちとしては、カンパ品の実売価格より高く落札してほしい、実用品のお買いものではないのです。その割高分が購入者の粋でありチャリティなのですが、参加者は日ごろ一円二円にとらわれて暮らす本物の庶民です。どうしてもチャリティの趣旨から外れてお得、お値打ち、引き下げ期待が先に立ちます。そこでオークショナー（販売員）が固い財布を緩めんと、あの手この手の話術を駆使する攻防が、もうひとつのお楽しみです。この錬金術が善意のバザーと違うのは、オークションという多少の緊張と遊び心を伴うことでしょうか。同伴した娘に「なんでそんな高いもの買うの」とたしなめられたお父さん。買い手のつかないカンパ品を義侠心で購入した愛すべき貧乏人。落札したお酒をさっそく開封して皆にふるまうお大尽。某社長さんは照れ隠しなのか「一年間の贖罪の気持ち」と、いつもたくさんの金品を供してくださいます。

人間は大自然に対していかにも非力です。しかしそこに敢然と立ち向かう助け合いの行動に、人間の希望を見出します。それにつけても国際紛争で生み出される難民や戦争被害者の救済に、貴重な善意を消耗させられることは許し難い。バックヤードの私たちは前線で活動する皆さんを応援する一方で、利権による紛争を起こさせないよう、日常的な学習と社会参加意識の涵養、政治への監視活動を続けたいと思います。贅沢気分のパーティと選挙への一票はつながっているのです。ライフビジョン学会はこれからも、共生のための学習活動を続けます。

※AMDA福山クラブ（藤井逸子クラブ長）のメンバーも同学会メンバーであることから、手作りお手玉等をオークション出品し、更に、AMDAの活動紹介をして下さいました。